

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第191号（5. 3. 8） 市立学校園の感染対策に関する陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立学校園の感染対策状況を把握し、全教室へのCO2モニター、HEPAフィルター空気清浄機（0.1マイクロメートル対応、部屋のサイズに合った台数）または中性能フィルター（エアコン取付けの使い捨てタイプ）、熱交換換気システム等の導入を検討すること。 ・感染拡大時や感染不安時だけでなく、軽い体調不良時などにも学びやコミュニケーションが継続されるよう、双方向オンライン授業などの取組を継続し、更に進めること。 ・マスク着用が緩和されると、感染リスクは格段に上がるが、学校は子供たちが学びを継続するため避けられない場所であり、様々な身体的問題や家庭環境を抱えた子供が通っていることに配慮し、感染状況に応じて子供たちを守ることができる対策をすること。
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市東灘区 藤間 朋子</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>教育こども委員会</p>

2023年3月8日

神戸市議会議長
安井 俊彦様

住所神戸市東灘区

氏名 藤間 朋子



市立学校園の感染対策に関する陳情

<<陳情^仰主旨>>

神戸市は、文部科学省からの通達を受けて市立学校園の卒業式について「マスクを外すことを基本」に変更することを発表しました。園児においては「歌唱などの場面を含め、マスクの着用を一律に求めず、マスクを外すことを基本とします」とされています。

現在、神戸市は市立学校園の感染対策を各学校園に任せており、それぞれが工夫されているものの、全教室に空気清浄機が配置されている学校園はまだありません。

感染対策が万全と言えない中、感染対策緩和だけを進めることは子どもたちの命と健康を侵害する恐れがあり、文部科学省の通達通りに行うだけでなく市独自の判断も必要なのではないかと感じています。

根拠は以下の通りです。

1. 新型コロナウイルスはエアロゾル感染の感染力の高さが指摘され、2022年以降の感染拡大に伴い子どもの感染も増え、全国で子どもの重症例、死亡例が報告されています。

インフルエンザ流行時のように、学校は感染源となりやすいことが知られています。

○国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2559-cfeir/11727-20.html>

2. 米国・VA セントルイス・ヘルスケアシステムの Benjamin Bowe 氏らによるコホート研究により「新型コロナウイルスへの複数回の感染により、死亡と後遺症リスクは2倍超、入院リスクは3倍超」になることが判明しています。

3. 子どもの感染増加に合わせて、コロナ後遺症や MIS-C（小児多系統炎症性症候群）と診断される事例が増加しています。長期に渡る後遺症により学校に通えなくなるなど生活に支障が出る例もあり、軽視されるべきではありません。

4. GIGA スクール構想により1人1台タブレットが配布され、条件を満たせば出席になる神戸市の取り組みは先進的です。対応には学校などによる差もあり、さらなる活用も可能と期待されます。

5. 新型コロナウイルスが本年5月に5類移行されることが発表されていますが、一方で、本年1月に神戸市で2月に和歌山県で、新型コロナウイルスの新たな変異株「XBB・1・5」（通称・

クラーケン)の感染者が発表されています。XBB・1・5は再感染率が高いとされています。

6.マスク着用の見直しが発表されましたが、スーパーコンピューター富岳の実験でもマスク着用の効果は証明されており、本年2月に新型コロナウイルス感染症対策会議アドバイザリーボードからも効果が公表されています。

また、「マスクを着用することで1秒量^{新型コロナウイルス}(最初の1秒に吐き出せる量)などはやや低下するが、血中酸素飽和度が有意に低下することはない」といくつかの研究で示されています。

○マスク着用の有効性に関する科学的知見

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001055263.pdf>

従って、以下の事項について陳情します。

<<陳情事項>>

- 市内^{市立}学校園の感染対策状況を把握し、全教室へのCO2モニター、HEPAフィルター^{空気清浄機}(0.1 μ m対応、部屋のサイズに合った台数)または中性能フィルター(エアコン取付の使い捨てタイプ)、熱交換換気システム等の導入を検討されること。
- 感染拡大時や感染不安時だけでなく、軽い体調不良時などにも学びやコミュニケーションが継続されるよう、双方向オンライン授業などの取り組みを継続し更に進められること。
- マスク着用が緩和されると、感染リスクは格段に上がります。学校は子どもたちが学びを継続するため避けられない場所であり、様々な身体的問題や家庭環境を抱えた子どもが通っていることに配慮し、感染状況に応じて子どもたちを守ることができる対策をすること。